



前橋市生涯学習
奨励員連絡協議会

責任者 大井常利

事務局
前橋市教育委員会
生涯学習課内

〒371-0023
前橋市本町2-12-1
前橋プラザ元気21
3階

☎(027) 210-2198

学ぶことは自身の成長と社会貢献

あらゆる分野に積極的に

世界を見渡すと、地理的、経済的、文化的な理由により、学習機会が均等に提供されていない地域があります。性別や年齢に関係なく、思う存分学習できる、平和な日本で学べることは、本当に幸せなことだと思います。

生涯学習とは、個人が生涯を通じて、自分自身を成長させ、自己実現を図るために、積極的に学び続けることをいいます。学校教育や職業訓練に限定されることなく、趣味や健康、家庭や社会活動など、人生に関わるあらゆる分野において学び続けることは、より豊かな生活を送ることにつながります。

いきがいを実感

その学びは、個人の知識を増やすことに

人のつながり深めよう 継承したい学び環境

学び続ける環境を

とどまりません。社会参加や人間関係の機会を増やし、互いに学び合い、社会に貢献することで、生きがいを実感する方も多いでしょう。生涯学習こそ人生一〇〇年時代の「生きる力」の源です。



新型コロナウイルス感染症により、私たちの学びの現場も大きな制約を受けましたが、明寿大学や公民館を通じ、動画やオンラインで学び続ける姿を見て、「学びたい」、「つながりたい」という熱意に圧倒されました。そして、学び方も多様になってきていることを肌で感じました。仕事や家事の都合などで学習時間が限られている人、遠方に住む人、外出が難しい方々にどのように学びを届けられればいいのか、考えるきっかけになりました。時間や場所、学ぶ環境の制約を超えて、いつでも、どこでも学びたいと思う誰もが、学び続けることができる環境を整えていく、それが前橋市教育委員会の役割ではないかと

前橋市教育長 吉川 真由美

考えています。

他者との関係の重要性

一方、デジタル技術により、知識を得ることが容易になった時代だからこそ、人の存在が重要になってきました。他者との対話や

計画通りの実施をめざす

前奨連の今年度行事

9月には生涯学習フェスティバル

ここ数年新型コロナウイルス感染症に翻弄されることがあり、計画された事業も実施がままならないことが多くありました。昨年からは対策を講じながら、開催されたものもいくつかありました。

五月九日の総会をもって具体的計画をすすめる予定です。令和五年度の事業が計画通りに実施されることを願っております。

様々な体験を通して、人は自分の考えを深めます。いつの時代も人を育てるのは人。新しい技術を活用しながらも、前橋という大きな学校の中で、人と人が学び合い、支え合う、温かい社会づくりの一端を担っていきたいと思っています。

令和5年度

前橋市生涯学習奨励員連絡協議会

役員

会長	大井 常利	(総社地区)
副会長	笠原 弘	(大胡地区)
事務局長	吉田 陸	(永明地区)
会計	福田 覚司	(城南地区)
監事	中山 洋子	(芳賀地区)
監事	中川 春雄	(東地区)

理事

持田 保	(一中地区)	茂木 勝彦	(旧二中地区)
岸 洋一	(三中地区)	関 壽夫	(旧四中地区)
鈴木政太郎	(五中地区)	塩原 義生	(上川淵地区)
持田みね子	(下川淵地区)	中山 洋子	(芳賀地区)
吉岡 一男	(桂堂地区)	中川 春雄	(東地区)
伊藤 茂男	(元総社地区)	大井 常利	(総社地区)
宗 義彦	(南橋地区)	鹿島 忍	(清里地区)
吉田 陸	(永明地区)	福田 覚司	(城南地区)
笠原 弘	(大胡地区)	長岡 一志	(宮城地区)
青木 裕	(粕川地区)	小林 勇	(富士見地区)

地区だより ④

地域の特色を生かして

広瀬川・沼田街道に沿った町

三中地区・昭和町二丁目奨励員

岸 洋一

三中地区は市の中心部の北西に位置します。昭和町、平和町、住吉町、岩神町、敷島町、緑ヶ丘町からなる十三地区奨励員十三名になっています。比較的広い範囲にわたり、それぞれの町が持つ背景も異なっています。地区全体での行事等は行っていない。しかし、これまで生涯学習フェスティバルに向けて、各町の歴史的な建造物や行事など特色のある様子を持ち寄り「広瀬川・沼田街道に沿って発展してきた町」として紹介してきました。けれども、コロナ禍によりそれでもできず、各町独自の取り組みを行っています。

人々のつながりづくり

この地域に住む人々が心を通わせ、結びつきを強めることで、安心・安全で住んでよかったと思える地域づくりのために、各

町で特色を生かして取り組んでいます。そのような例として、「地元の神社に伝わる行事への参加と継承」「戦争体験の語り継ぎと慰霊活動」「町の歴史的文化財や遺構をめぐり理解を深める活動」があり多くの参加を得ています。

全世代を考えて交流をつくる

また、高齢者が多くなっていることを踏まえて、安全・安心のために「まえばし出前講座」を活用して「防犯講座」や利根川・広瀬川をひかえていることから、前橋市総合防災マップなどに基づいた「マイ・タイムライン」なども行いました。

加えて、異なる世代間の交流が少ないのではということから、自治会と一体となって、育成会の役員の活躍によって「ボーリング大会」を開催し、子どもから高齢の方まで多くの参加を得たということもありました。このことは将来の地域の担い手作りにも役立つのではないかと思います。

生涯学習奨励員。いま、わが町で。

伝統芸能の継承

秋季例大祭の稚児獅子

総社地区・総社町立石奨励員

山田 孝

総社町立石自治会は歴史を遡ること、植野村字立石でしたが、利根川沿いのこの集落は、川欠けにより移動を余儀なくされました。そして、今の地域に立石村を形成したことから、自治会名にこの名称が引き継がれています。また、当町内には時代の変遷の中でも守られてきた「立石諏訪神社の獅子舞」があります。(前橋市指定重要無形民俗文化財)。これは五穀豊穡・無病息災・家内安全を祈願し、町の鎮守である諏訪神社に奉納するもので、秋季例大祭に行われています。一人立ちの三人獅子とカンカチの計四人による奉納色の強い稚児獅子です。

コロナ禍で披露もままならず



諏訪神社の境内で行われた獅子舞

この伝統芸能も戦争以降、約三十年間中断を余儀なくされていましたが、先人の方々が復活させ、獅子舞保存会を発足させて守り続けてきました。現在では青年指導者が子ども達を指導する体制を整え、継承活動が行われています。

しかし、新型コロナウイルス感染症の影響により、ここ数年は披露できる機会がなくなっていました。また、練習もままならないことから、子ども達への継承が出来ない状況になっています。そのため今年度は十月二日の諏訪神社秋季例大祭、十一月十三日の総社秋元公歴史まつり、二月四日の伝統芸能厄払いフェスティバルには緊急措置として、青年指導者に披露してもらいました。

このように伝統芸能は空白が生じると継承が難しくなるため、一刻も早い新型コロナウイルス感染症の収束を願ってやみません。

行動の制限から

交流の大切さを学ぶ

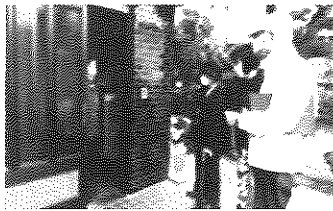
大胡地区・東金丸町奨励員

中島 徳雄

赤城鍋割山を間近に望み、豊かな自然に恵まれた世帯数が百戸余りの小さな町です。

町内に滝窪小学校金丸分校や特別養護老人ホーム「鐘の鳴る丘愛誠園」があり、両施設と自治会は関わりも多く、コロナ禍で中止されているものの、分校の除草作業は合同で実施、防災訓練や秋祭りなどは愛誠園と合同で開催しています。

年間の主な行事は道路清掃、有価物回収事業、納涼祭、ふれあいいきいきサロンなどですが、納涼祭は多世代交流の貴重な行事であり再開できることを願うばかりです。



高齢者宅訪問

永年下川淵地区の会長を務めた大先輩の後任です。市長からの委嘱状に同封されていた書類には、「奨励員一人では実施困難なので自治会と協同して云々」とあり少し安心しました。

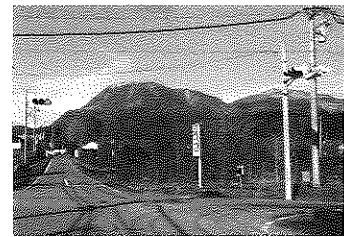
下川淵地区では二か月に一回定例会を開催し、各地区の取り組み状況を紹介します。参考になった事例は自治会長に報告し、早速昨年十二月には市の危機管理室の方を招いて「マイ・タイムライン」の説明会（三十数名が参加）を開催しました。

一年を終えて

活動を振り返ると

下川淵地区・下川町奨励員

田村 誠



我が町の家並みの後ろに見える鍋割山

また、毎月開催しているふれあいきいきサロンはボランティアのアスタツの方々の協力により、飲食を伴う楽しい交流の場となっているので再開を望む声も

工夫の結果活動が広がる

多くあります。

そこで、三密の状態を避けて何かできないか？…スタッフの方々と協議の結果、家庭訪問の実施が決定され、訪問先はサロン出席者に限らず幅を広げての実施となりました。

コロナ禍で日常生活が一変し、未だ終息が見えないなか、不測の事態への対処法を模索する必要性と、長い自粛生活の経験は交流することの大切さを実感しました。

以来役員会に同席し情報を共有することになりました。

有志の企画で学ぶ場をつくる

さてここ下川町は約四十年前に誕生しました。以来下川淵地区の公民館と下川町の公民館に合せて六十近くの自主グループがあり、皆さん興味のあるグループで研鑽を積み、その成果を「桜まつり」や「納涼祭」「文化祭」に、さらには地区公民館の文化祭でも発表し続けているのです。つまり四十数年も前から生涯学習に取り組んできました。昨年も「コロナ」に翻弄され続けましたが、ある方が①「上野三碑を訪ねて」②「上毛新聞印刷センター見学会」③「前橋の新議会棟見学（雪で延期）」を企画され一緒に参加して学習することができました。この体験を生かして生涯学習に関わっていかうと思います。

また下川町では「ささえあいの会」という会が活動しています。今から五年前に政府から「誰もがこの町に住ん

でいてよかったネ」と言われるような

「町づくり」への取り組み要請があり自治会に計りましたが協力は得られませんでした。町のボランティア活動を熱心に行っている女性に相談した結果、民生委員とサロン会、そしてボランティア会の人たちで「ささえあいの会」を立ち上げました。それから四年が経過し、八十歳以上で訪問を希望された約八十名のお宅を三、四人がひと組で、会のバッチを胸に付けて訪問しています。お体の調子や困りごとなどを伺い、慣れ親しんでおります。その様子は二か月毎の会議（自治会長も出席）で報告され、次回の訪問に生かしています。一緒に訪問してご高齢の方から学ぶことがたくさんあります。

相次ぐ行事中止で

コミュニティ崩壊の危機

旧二中地区・城東町四丁目奨励員

茂木 勝彦

コロナ禍も終息と迄は行かないものの一息つける状態となりました。しかしこの間どの町も同様なのでしょうが、わが町の地域活動も大きなダメージを受け、主要行事や活動が殆ど出来ない状態に陥ってしまいました。

自治会長はじめ町の各団体が活動拠点としている城四会館が閉鎖され全く使用出来なくなってしまうからです。

一年の様々な行事

春三月「新入学児童お祝い会」五月、一人暮らしのお年寄りをお招きし、各団体役員手作りの山菜料理等でもてなす「ふれあひ会食」。夏の一大イベントは八月の「納涼祭」で場所は元スーパ跡の市有地。（町内には公園が無い）人口減少顕著なわが町もこの時ばかりは町を離れた二世三世、更に近隣の人達で大賑わいとなります。

秋九月、「敬老祝賀会」後期高齢者を招いての祝宴と「城四親子お箸の会」を皮切りに、町民によるカラオケ・日舞・大正琴・コーラスと様々な出し物で盛り上げます。

十月の祭りは城東五ヶ町の最大イベント、諏訪神社に五台の山車が揃い清祓式の後巡行に出発します。それぞれ子ども達が熱心にお囃子の練習を重ねます。ところが令和元年は台風接近で前橋まつりが中止。以降コロナにより城四祭りは中止が続いています。

十一月文化祭。作品展示と舞台発表を毎年交互に行っていますが、これも中止やむなしです。

グラウンドゴルフは旧二中の校庭を借りていましたが建物解体・敷地整理で使用不可となり、スーパ跡地の狭い場所と細々と続け、ふれあひサロンも会館閉鎖で出来ません。

その他諸々の取り組みが滞ってしまい、人が集える事の大切さ、コミュニティ崩壊を何としても食い止めねばならないと、模索を続けている昨今です。

前奨連セミナー

萩原朔太郎の生涯を学ぶ

『詩のまち前橋の再発進』

講師 詩人・日本ペンクラブ会員 久保木 宗一氏

令和四年度の前奨連セミナーが一月十七日に前橋中央公民館において参加者六十八名を迎え行われました。このセミナーは、生涯学習奨励員資質向上を目的に行われています。

今回は、詩人・日本ペンクラブ会員久保木宗一氏を講師に、萩原朔太郎の没後八十年にあわせ、詩のまち前橋を再発進すべく、朔太郎の業績と再開発進む広瀬川の歴史について学びました。

久保木氏の思い伝わる



私は十五才から詩作を始め、最初の詩作は「聖夜」でした。同時に堀辰雄の小説や詩に巡りあい、更には立原道造、津村信夫、

中原中也等の四季派の詩人たちの抒情に触れ又、大学時代は全共闘運動など学園紛争の激しい中、田村隆一、吉本隆明、北川透等の詩によって「観念」の大切さに目覚めて以降「抒情」と「観念」の融合をめざして詩を書き続けています。

海外にも評価高まる

前橋市の誇りに

大学卒業後は前橋市役所に奉職し、市立図書館、前橋文学館等で勤務し、その中で「人を知る」事ができ、定年後の今でも詩に浸り、詩を書くことが自分を保つ事だと思っています。

全国各地で展示の集い

令和四年は前橋の詩人萩原朔太郎没後八十年。それを記念して全国五二ヶ所の文学館で「朔太郎大全」が初めて展示されました。朔太郎は前橋中学時



代に文学に目覚め、開業医の父親に逆らって命がけで詩を書いてきました。三十一才で第一詩集「月に吠える」を自費出版し、そのあと幾多の詩集が刊行され、最

後の詩集は没年の二年前、五十三才で刊行された「宿命」でした。「月に吠える」で口語自由詩を確立し、詩の変革を遂げた事で「日本近代詩の父」と言われています。

フランスの詩人ボードレールの影響を大きく受けた朔太郎の認知度は世界中でフランスが一番、次いでヨーロッパ、米国、日本となっています。取り分け日本の中でも郷土前橋での認知度が残念ながら最低との事。

朔太郎の詩は十二か国語に翻訳されており「世界詩人」と言われています。

前橋は糸の町。糸の文化が朔太郎を始め高橋元吉、萩原恭三郎、伊藤新吉、東宮七男等多くの詩人達を育んできま

した。まさしく「詩のまち前橋」です。この事実を礎に「水と緑と詩のまち前橋」を再発進して行きたいものです。因みに朔太郎の原資料は前橋文学館に収蔵されています。

(久保木宗一先生は日本ペンクラブ、日本文芸家協会、日本現代詩人会等の会員であり、県立図書館での「詩を楽しむ会」を催しております。)

(前奨連研修委員長 笠原 弘)

あゆみ (1月～3月)

▼II 主要事項

- 1・17 ■前奨連セミナー▼演題「詩のまち前橋」講師 久保木宗一先生
- 2・20 ■総務委員会▼理事会対応案件
- 3・20 ■第5回理事会▼令和4年度総括関連▼令和5年度事業計画・予算関連▼令和5年度総会・研修会開催計画

◆奨励員情報 (敬称略)

令和四年度前橋市

社会教育活動功労者感謝状贈呈

吉田 睦

(胸形町生涯学習奨励員、前奨連事務局長)

鈴木 政太郎

(天川原町二丁目生涯学習奨励員、前奨連理事)